闘争の爆発、大阪御堂筋における五万大衆による再
デモ闘争の貫徹、沖縄における五万人前夜決起集会をひきついだ基地労働者・教育労働者を先頭とする三大選挙勝利へのスタート・ダッシュは、このような10・21大闘争の頂点をなすものであった。

3

反戦・反安保・沖縄奪還の七〇年政治課題を真正面からかかげた労働者闘争のこのような前進は、労働戦線の右寄り「戦線統一」によって労働者を経済主義的国益主義の枠内に体制内統合しようとしている労資協調幹部のたくらみに、反撃を加えたものである。敵の秩序の枠内に労働者を封じこめ、「七〇年安保条約終了署名運動」にうつつをぬかしている代々木共産党の議会主義的「社共共闘」のたくらみを、一歩踏み越え

いないことを、熟知している。しかし、端緒はすでにかちとられたのである。われわれは、この萌芽的前進を系統的におしすすめ、七〇年闘争を勝利にみちびく不抜のヘゲモニー力を形成してゆかなければならない。それこそが、総体として10・21闘争の成功を、ひきつづき総体的に継続発展させてゆく最大の保証である。

4

10・21闘争の大高揚に驚愕した佐藤内閣は、労働者階級の七〇年へヘゲモニー力が一層前進することを、なんとしてでもくいとめようと腐心している。騒乱罪発動のねらいは、まさに、総体としての10・21闘争を分解し、分離してしまうこと、頂点としての新宿闘争を広範な闘争全体から切り離して孤立させること、労働

いるのである。われわれは、このような「アカハタ分子」の恥知らずな策動を糾弾しなければならない。

5

6・15から10・8にいたる連続闘争をさらに発展させた10・21大闘争は、国家権力による大量逮捕、不法捜索、騒乱罪キャンペーン、五万人の機動隊動員、自衛隊員の防衛庁配備、新宿デモ・御堂筋デモの禁止等半戒厳令的な弾圧をのりこえることによって、たたかいとられたのである。

まさにこれは、なにものもおさえることのできない大衆自身による反権力闘争の爆発であった。戦闘的大衆は、政治ストライキの禁圧に対してストライキそのものを決行することによって、集会・示威権の剥奪に対して果敢なデモに決起することによって、みごとに

21をたたかいぬくことを通じて、沖縄主席選挙の勝利をかちとり、自民党大会における佐藤三選を阻止する十一月行動の連続的進路を切り拓いたのである。騒乱罪発動を敢えてした佐藤内閣の「タカ派」的暴挙は、反政府抗議行動を逆に招き寄せ、彼ら内部の紛乱・自壊にみちびく客観的政治条件を自ら作り上げた。

ためらうことなしに10・21闘争が切り拓いた道を進まなければならない。労働者階級のヘゲモニー力をさらにたかめながらいっさいの反戦・反安保勢力を結集して、騒乱罪粉砕・佐藤反動内閣打倒に向って前進をつづけよう。

スト禁止にはストライキをもって、デモ権剥奪にはデモをもって、騒乱罪適用には「騒乱」をもって!

労学連帯によって 前進せよ!

明

共産主義労働者党
統一社会主義同盟

粉砕の闘争を

内閣打倒を中心スローガンに、全国六百カ所
総評、中立労連傘下の労働組合十七単産の実
の労働組合もさまざまな規模と形態で行動
的な取り組みの具体化として高く評価され
ストライキを基礎に、大衆的に決起し、果
要都市・主要基地周辺で大衆的デモが敢
る規模と質をもって闘い抜かれた。
勝利へ、最後の総力をあげての取り組みが
るという大デモが五万人にのぼる労働者、学
においては、明治公園を基点とした五万五千
千人を中軸とする七千をこえる戦闘的学生
米軍タンク車輸送阻止の三万をこえる学生
は、この一〇・二一の全国的大衆的高揚とし
打倒の闘いに恐怖し、ついに騒乱罪適用とい
議の意志を表明し、その粉砕のために全力
、政府官憲の弾圧計画は騒乱罪の適用から
てくるであろう。
の企だてに対し、われわれは七〇年闘争を闘
有効な反撃を組織し、七〇年闘争勝利のた
迫した状況下に、またもや「闘う」陣営の
りがたいセクト主義のゆえに、一〇・二一
撃に唱和するかのように例によって例の如
ながらも、その態度において、断固たる姿
のこの暴虐な弾圧に対して共同の反撃に起
多くの闘争の教訓に学び、一〇・二一闘争
をはねかえして闘いぬくことを、ここに共

御堂筋・大阪駅を占拠

職場反戦・自治会共闘先頭に

大阪での一〇・二一闘争は、全電通大阪地本の早朝デモ（市内七コース、六千人）と、ベトナム反戦大阪行動委員会の新明和工場に対する抗議行動から開始された。この日、大阪全体は朝から異様な緊張と興奮がうずまいていた。大阪府警は、京都、兵庫、奈良、滋賀、和歌山などからの「応援」をふくめて機動隊八千人をこす空前の弾圧体制を固めた。大阪駅付近、御道筋、難波の商品街は「デモ」にそなえてあわただしい動きを示し、市民たちは私鉄関西地連などがくばった反戦ビラを読みながら、今日の御堂筋デモの話でもちきり。国労、全自交、全金など十二単産は早朝一時間ストでたち上り、全逓、全専売をはじめ各職場では屋休み職場集会がひらかれ、大教組は府下の小・中・高校いっせいに「沖縄を一時間教える授業自主管理」の闘いをくりひろげた。学園では、大阪市大、大阪学芸大、大阪経大のストライキを先頭に、ほとんどの大学でスト、授業放棄にはいった。

総評大阪地本の主催する扇町公園、扇町プールでの総決起集会には、開催時間午後五時以前より、各組合、学生、反戦青年委員会、ベ平連、高校生などの諸部隊が続々とつめかけ、扇町プールを三万人があっというまにうめつくし、プール前公園には二万人、計五万人が集会をひらいた。集会には、労働組合の大部隊とともに色とりどりのヘルメットをかぶった自主的な反戦部隊がひときわめだった。数千人を数えるこの自主的反戦部隊は、昨年の砂川闘争以来、七〇年への新たな地平を切りひらき、息つぐひまもない連続的闘争を闘いぬき、一〇・二一の爆発と労働者本隊の登場を準備したのである。

天王寺音楽堂で分裂集会をひらき、この大統一集会には代表（村上大阪府委員）だけを参加させた共産党は、あつかましくも「挨拶」にたち、「民族の独立」や「安保破棄通告」というあいもかわらぬ民族主義・議会主義的言辞と「挑発分子をおいだせ」という分裂主義的呼びかけを行ったが、集会場を圧する「帰れ、帰れ」のシュプレヒコールによって正当にも応えられた。

一方、市大教養ストを先頭に、学芸大、桃山大、関大、阪工大をはじめ京都から参加した諸部隊を含めて三千名の大部隊を結集した自治会共闘は十時に中之島公園で独自集会をひらき、デモで扇町公園の集会に合流した。

大阪総評は当初、総評単独集会－御堂筋デモ回避の日和見主義的方針で一〇・二一を行なおうとしていたが市職、大教組などの単産全大阪反戦青年委員会などの部隊が、職場反戦の下からの努力を基礎に総評にはたらきかけ、ついに扇町から三コースのデモの中に御堂筋デモを組みこむことをかちとった。全大阪反戦青年委員会に結集する自主的反戦部隊はこの扇町－梅新－（御堂筋）－淀屋橋コースに結集し御堂筋奪還を闘いぬくことを決定していた。

六時三〇分、全大阪反戦青年委員会の部隊を先頭に御堂筋へむけてデモ隊が出発。自治会共闘、市職、大教組、ベ平連の諸部隊がそれにつづく。会場出口から、すでに「安保・粉砕」のかけ声とともに激しいジグザグデモが展開される。梅新の交差点に達すると、等身大のタテをかまえた機動隊が三重四重にまちかまえている。御堂筋デモを「緩行車道」のほそぼそとしたデモにおしこめようとするために配置されているのだ。デモ隊は、激しく機動隊と衝突をくりかえしながら御堂筋に入る。機動隊の並進規制をおしかえし、中央車道へ進出が幾度となく繰り返され、ついに機動隊を圧して中央車道へ突入。「ワァー」という大歓声がこだまする中を、一万の労働者・学生・高校生・市民の密集隊列は、御堂筋中央車道を完全にうめつくし、歓声と「アンポ・フンサイ」のかけ声でまっしぐらに淀屋橋まで走る。六・一五での八年ぶりの御堂筋奪還についで、再び労働者・学生の大隊列が御堂筋を完全に占拠した。

淀屋橋の大阪市役所前でデモ隊はいったん停止、前方には十五列の壁をつくった機動隊。約三〇分ほど前に、地下鉄淀屋橋駅から登場した社学同派の部隊の「ゲバ棒・投石」による〝ゲリラ戦〟が行われ、あちこちにその残骸がのこっている。自治会共闘、地区反戦、市職、高校生、日中正統派など約一万人は機動隊と対峙しつつ、敢然と坐込み集会を展開した。前方で社学同、中核派などの残存部隊、社青同解放派などが二度三度棒ザオをもって機動隊に突入をはかる。これを機に機動隊は警棒をふりかざしてデモ隊に兇暴におそいかかった。ヘルメットをかぶっているものもいないものも、女性や高校生にも無差別に警棒がふりおろされる。狂気の機動隊はデモの一部を追いつめ、女子学生も含む数名を五メートル下の市役所地下一階につきおとした。市職、大教組、自治会共闘、高校生、ベ平連の諸部隊は、弾圧に抗しつつ隊列をととのえ、機動隊の暴圧に抗議しつつ、次第に右折して総評デモの解散地点の中之島公園にはいっていった。

他方、「実力」闘争方針を確定していた社学同派、中核派は、扇町統一集会－デモからはなれて、独自の「ゲリラ戦」を行なった。桃大教養（昭和町）に集結した社学同派は地下鉄で北上し、淀屋橋に向かい、京都から新大阪をへて地下鉄で南下した部隊と合流、淀屋橋上で投石と角材による突入を試みたが、機動隊におしつぶされた。社学同派は他の若干の部隊と合流し、中之島公園から南下し難波付近で激しいゲリラ戦を行った。約一万の群衆がそのまわりをとりかこみ機動隊の弾圧に抗議の声を上げた。

中核派は、阪大教養に集結した部隊と京都からの部隊が阪急梅田駅で合流約三百人が曽根崎署前で機動隊と角材・投石で衝突。約三十分後にけちらされたが、梅田交差点付近一帯に約五万人の市民があふれ、学生がいなくなったあとまで、機動隊とにらみあい、「ポリ公帰れ」の叫びをなげつけ、投石をする部分もあった。

中之島公園に結集した市職・府職・大教組などの部隊は、総評デモとしてはいったん解散したが、職場反戦、青年部などが中心に、自治会共闘の学生部隊とともに再度北上し、肥後橋、桜橋をとおって大阪駅にむかって、あくまでも大衆的デモを貫徹することになっていた。まず、市職を中心にする部隊が、若干のグループとともに出発した。道路一杯にうめつくしながら北上、総

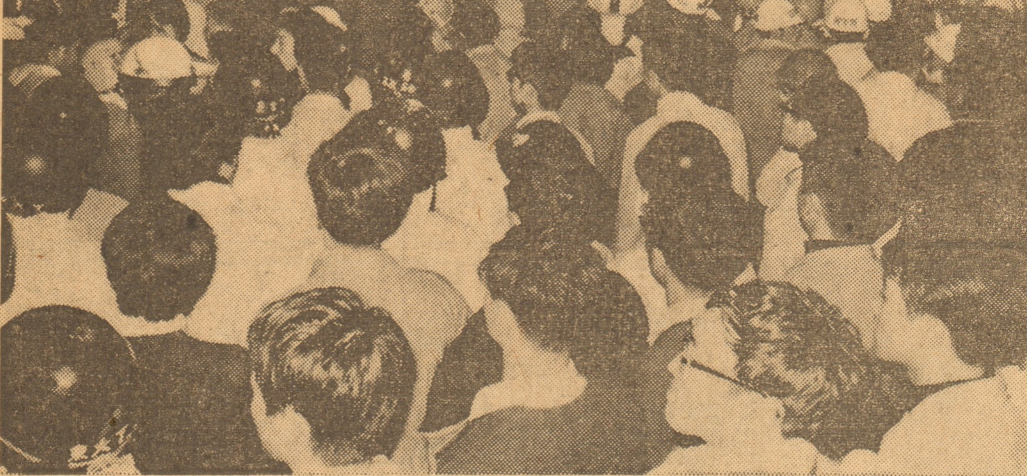
ト五十人を先頭にする「青労」・都島反戦グループ・北摂平和の会・東淀川反戦の青年労働者も結集した。

市職反戦の代表、全大阪反戦の鍵山事務局長、社青同大阪地本の西村委員長がつぎつぎとたち、「角材・投石の少数『武装闘争』

頃解散した。

大阪における＝一〇・二一闘争は広範な市民の流動化・自然発生的たち上りをふくみつつ、御堂筋奪還＝市庁前大坐り込み集会と大阪駅構内人民政治集会を二大頂点として闘いぬかれた。一方における総評幹部の日

りひらく職場＝産別反戦＝地区反戦＝自治会共闘の大衆的部隊、その中核としてのプロレタリア革命派によってのみ七〇年闘争の前進をかちとることが出来るであろう。大阪においても一〇・二一への準備と一〇・二一闘争の中でこの前進は確実に開始されている。



大阪駅前の人民政治集会

職場反戦を原動力に

労働者一万が決起

京都

【京都】一〇・二一国際反戦統一行動は、京都でも東京、大阪の闘いに呼応して、一万有余の労働者が決起し六六年のラスク入洛反対闘争いらいの盛上りをみせ、七〇年闘争の大衆的高揚が開始された。この日はまず全電通が午前七時から円山音楽堂で三千名を結集して決起集会を開き、各職場まで出勤デモを行った。全金の三〇分時限ストをはじめ、ストライキに至らぬいくつかの単産・単組もつぎつぎと職場集会を敢行し、職場・生産点での反戦・反安保・沖縄奪還の意志結集がかためられていった。

一方、学生戦線は、京大（工学部、薬学部を除く）、立命、同大の全学ストをはじめ、教育大、府立医大などで一斉にストライキに突入し、午後三時すぎからデモをくりひろげ、約三千名が御堂筋デモに参加すべく大阪にむかった。

午後六時からは円山音楽堂京都総評主催の「ベトナム反戦・沖縄奪還・安保破棄一〇・二一国際反戦統一行動全京都労働者総決起集会」が開かれ、神戸港駅闘争に参加した国労を除く総評傘下のすべての単産の労働者と反戦青年委員会など、千名が結集し、会場に入りきれない労働者が円山公園を埋めつくした。集会では「本土では沖縄の闘争のように全民主勢力が統一して闘えないのは何故か」という共産党谷口議員のメッセージに対し、「共産党のせいだ」という激しいヤジが一斉にとびだして騒然とする一幕もあったが、沖縄三大選挙勝利を中心とする行動方針が確認され、ただちに市役所前までのデモに移った。

旭川で千名

【旭川】旭川における10・21国際反戦行動は、「民主共闘会議」（旭労会議、社会党、共産党などで構成）の主催で、五時半から約千名の労働組合員、学生などを結集して闘われた。「民主共闘会議」は、「統一行動」を唱えながら、「統一行動の破壊者」として革マル派を集会・デモから排除した。革マル派約百名は旭教大からのデモの後、独自集会を開いて解散した。

旭川べ平連は、十月行動として独自に六日にシンポジウム（参加者二十名）、十六日にベトナム反戦集会（四十名）を開き、十三日十九日と反戦行動への参加を呼びかけるビラまきを行って、当日五十名を結集し、デモでは、中心街において、唯一の戦闘的行動を展開する部隊として、ジグザク、かけ足デモを行って反戦の意志を力強く示した。これに対し、民青・日共系は、この行動を封鎖するために権力と変りない規制をかけてきたが、旭川べ平連に結集する若いエネルギーは、これをはねのけた。デモ終了後の総括集会では、参加者から日共系のセクト主義と闘うエネルギーをとじこめる統制に対する批判が集中し、今後さらに反戦闘争を継続し高揚させるために奮闘することを確認して解散した。

加し、千五百名の大
この集会はほとん
た。

デモ

岡

【岡山】岡山大学の
国際反戦労学ゼネスト
ス、学部授業放棄に
四百五十の学友を結
た。

岡山大学統一会議
の機動隊乱入以降、
るバリケード闘争と
路線を暴露する闘い
きた。民青、中核派の
への敵対を押しのけ
治改革の永続的闘い
て闘い抜いてきた。
統一会議は、破防法
したことのない学園
一〇・二一闘争を準
民学同の提起したデ
学自治革新と結合し
安保ストはこの岡大の
も、岡山市のメイン
柳川車道奪還を攻撃
らのクラス安保研の
衆の政治的意識の発
た全学学生大会とし
いた。

われわれは、この
の実現によって岡
カンパニア的性格を

山陰でも闘い高揚

着実に前進した10月闘争

【倉吉】全国的な反戦闘争や労働運動から遅れがちな山陰の鳥取県でも最近、静かなうねりとして闘いが盛り上りはじめた。

十月に入ると、八日に自治労、高教組を中心にストが闘われると共に、美保基地へは学生組織と反戦青年委の一部が少数ながらデモを敢行した。反戦討論集会も県下各地で持たれ、倉吉では反戦青年委員会主催で十二日「反戦と反合闘争について」、十九日に「安保体制打破七〇年闘争について」の討論集会が持たれた。

このような連続的な闘いは十月二十一日の国際反戦行動へと高まって行った。

鳥取大学では教育学部、医学部が開校以来はじめてのストを三分の二の多数で決定し、鳥取、米子、倉吉では反戦集会が開かれ、メーデーにつぐ大規模な集会とデモを行なった。

倉吉地区では市の中央部である福祉会館前で午後五時半より反戦集会が行なわれた。この度は地評は割当動員は行なわず、各単組の実情によって自主参加としたにもかかわらず、ぞくぞくと労働者がつめかけ、約千名に達する集会と

石油化学労働者

10・21に初参加

反戦会議結成さる

アメリカが北爆を始めてから二年半、いまやっとそれが停止されそうな気配です。最近では北爆もニュース・バァリューを失い、マスコミももうほとんど報道していませんでした。また報道制限や政府の圧力によって、私たちの目にふれるベトナム戦争のニュースはほんのわずか。それもゆがめられたものが多いことは周知のとおりです。そしていつのまにか、私たち自身もベトナム戦争に不感症になってしまっていたのではないでしょうか。しかしいぜんとして戦争は続けられており、きょうもベトナムの空の下、米軍、解放戦線軍、南ベトナム政府軍をはじめいくつかの国ぐにの兵士たち、ベトナムの市民、農民、子供たちが次つぎに死んでいます。一方、日本政府は、日米安保条約を口実にアメリカのベトナム派兵を支持し全面的に協力する姿勢を崩していません。

全島が巨大な米軍基地と化した日本国沖縄県。日本中に点在する米軍基地、米軍チャーター機が通告なしで離着陸する東京国際空港米空母がわがものがおに寄港するヨカスカ、サセボ、そしてアジアの先進国日本の工業力を背景とした、ナパーム弾の製造からジェット機、ヘリコプターの修理、トランジスタ・ラジオにまで至る特需。それだけではない。引火点の低いジェット燃料を満載したタンク車が私たちのかたわらを走っている毎日。加えて、熱海、王子と数えあげると、これはもはや私たちの日常生活の中でのベトナム戦争です。平和憲法の下で、私たちは無意識のうちにベトナム戦争に加担させられているのです。

私たち石油・化学労働者が直接手がけたぼう大なジェット燃料（灯油とガソリンを混合したもの）は、日夜タンク車を連らね、米軍基地へむけて出荷されています。ナパーム弾の原料もまた石油化学製品であり、ベトナムに投下されるナパームの80%が日本製だと言われています。

最近、米軍の日本でのジェット燃料調達が急増している理由については、一つにはこれまで日本においてジェット燃料を生産する会社もその生産数量も限られていたという事情があると考えられますが、それよりも、アメリカのベトナム戦争介入が深まるにつれてその莫大なジェット燃料の需要をみたすためには、どうしても日本の東洋一の石油製精能力に依存せざるをえなかったという事情をあげなければなりません。

ここに日本の石油・化学産業の全国的なベトナム戦争への協力の姿が明らかに示されていると言えるでしょう。ちなみに、日本の石油各社の米軍納入番付は表のとおりです。

社名	42年度	43年度
三菱石油	二六六	二七四
大協石油	一八一	一八〇
アジア石油	八	
エッソ石油	三	
日本石油	八〇	
日本鉱業	七	
出光興産	一	
丸善石油	三	
モービル	二	
日本漁網	一	
東亜石油	一	
九州石油	一	
三井石油	二	
ゼネラル	一	
計	八一三	

単位は一〇〇〇
ル、43年度は受注
（222委員会調

▼この数字からみ
冬、家庭燃料用灯油
品不足。またそれに
なって、私たちの生
されてくることは容
ます。

これらを総合すれ
油・化労働者は、
を推し進めている日
をゆるしているにと
らず知らずのうちに
的に、職場で戦争加
行させられているこ
はないでしょうか。

▼いまや、日本の